

# 平成 25 年度 事業計画書

(平成 25 年 4 月 1 日より平成 26 年 3 月 31 日まで)

平成 25 年 1 月頃からの円安傾向により財団収入の増加傾向が見られるが、まだ利息が出ていない債券もあり、また今後の動向について不確定な要素も少なくない。このような経済状況の中で、当財団の中心的事業である研究助成事業の着実な実施と内容のさらなる充実を図ることが必要である。

本年度は、当財団創設 20 周年記念事業として、その特定事業予算より、若手研究者向けのホソカワ粉体工学研究奨励賞の贈呈、ならびに特別記念講演討論会の開催を予定しており、これらの事業を成功裏に実施すると共に、自主事業の一つである KONA 誌の出版に関しては、No. 30 までの出版の歴史を踏まえて、この雑誌の体裁や出版体制等について見直しを行う予定である。

## I. 助成関連事業

本年度は昨年度と同様に、以下の 2 つの助成事業を継続する。

予算額 1,200 万円 (事業管理費を含む)

1. 粉体工学に関する研究のための研究費助成 (研究助成)
2. 粉体工学に関する優れた研究業績に対する褒賞 (KONA 賞)

## II. 特定事業

公益法人化申請の際には、財団設立 20 周年記念の特定事業の一環として、平成 25 年度に、以下の 3 つの事業を予定していたが、第 3 項の海外シンポジウムの開催に関しては、国際的な粉体工学の活動・進展状況、ならびに財団の事業運営状況に鑑みて、平成 26 年度に延期することになり、平成 25 年度には前 2 項の事業を実施する。

予算額 850 万円 (事業管理費を含む)

1. ホソカワ粉体工学研究奨励賞の贈呈 (予算 530 万円)

粉体工学の将来を担う若手研究者を対象として、研究奨励賞を贈呈する。募集に当たっては 39 歳未満の年齢制限を設けて、50 万円の副賞を 6 名に贈呈する。

2. 特別記念講演討論会の開催 (予算 320 万円)

財団設立 20 周年特定事業として、例年自主事業で開催している粉体工学に関する講演討論会に合わせて、平成 25 年 8 月頃に大阪で特別講演会を開催する。本講演会には、著名な講師による特別講演、ならびに上記研究奨励賞の贈呈式を組み込んだ企画を行う。

3. 海外シンポジウム (平成 26 年度に延期)

世界的なレベルで粉体工学の発展に寄与することを目指して、日本と同様に粉体工学の活動が活発であるドイツにおいてシンポジウムを開催し、日独間の研究・技術の交流を図る。

### Ⅲ. 財団自主事業

#### 1. 粉体工学に関する講演討論会の開催

① 予算額 150 万円（前年度予算は 350 万円）

② 趣旨・内容

粉体工学の当面の重要課題を選び、第一線の研究者（5～6 名）から最近の研究成果について講演していただき、その課題に関心の深い研究者・技術者の参加を募集する。講演と討論を通じて粉体工学の発展に資することを目的とする。毎年 1 回、会場は大阪・東京において隔年開催を原則とする。（本年度は大阪において開催の予定）

③ 経費および用務の分担

本講演討論会の企画については、粉体技術談話会に委嘱し、そこでテーマの設定、講演者・討論の司会者の選定等を行う。参加費はすべて無料とし、講師謝礼、旅費、宿泊費およびテキスト印刷費などの予算を計上する。

#### 2. KONA 誌の発行

① 予算額 500 万円（前年度予算は 460 万円）

② 趣旨・内容

KONA 誌は当財団が年 1 回発行する粉体工学に関する英文の学術誌であり、世界中の研究者から粉体の科学及び工学に関する研究論文およびレビューを集め、これらを編集して発行し、全世界の関連する研究者、研究機関、図書館などに広く無償で配布している。KONA 誌はインターネットを通じて無料でダウンロードすることもできる。平成 22 年 6 月から Journal Citation Report に KONA のインパクト・ファクターが収録されている。なお、No. 30(2013)の掲載論文数は 22 編、288 頁で 600 部を印刷・発行した。

次号の出版については、粉体技術談話会に委嘱し、編集等を行うと共に、雑誌の体裁（サイズ、表紙等）や出版体制についての見直しを図る予定である。

### Ⅳ. 年報の発行

① 予算額 20 万円（前年度予算は 70 万円）

② 趣旨・内容

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果を公表するために発行される。年報は以下の内容を含む。

- (1) 理事長挨拶
- (2) 役員等名簿
- (3) 研究成果等の報告

以 上